

**大学入学共通テスト出願**

大学入学共通テスト(以下、「共通テスト」)の出願期間は9月28日(月)～10月8日(木)です。3年生はすでに願書を書き終えました。校内での最終チェックの後、来月初旬に学校でとりまとめて発送する予定です。共通テストまでおよそ16週、いよいよ受験が現実味を帯びてきました。

56期生が受験する共通テストは、新型コロナウイルス感染症対策のため、来年1月16日(土)・17日(日)または30日(土)・31日(日)の2つの日程で実施されます。本校の出願者は、鹿児島大学会場等で受験する予定です。共通テストは、全国で50万人を超える受験生が受ける試験です。国公立大学入試の一次試験としての役割のほか、私立大学入試等にも利用されています。大学や学部学科によって必要な科目や配点異なりますので、事前調査が必要です。1・2年生も、全クラスの本棚に並んでいる『蛍雪時代』を手にとって確かめてみましょう。

「静」の後期

学校行事の多かった「動」の前期が終わり、来月からは落ち着いて学習に取り組める「静」の後期が始まります。1年生の課題は「文理コースの選択」、2年生の課題は「志望校の決定」です。

1年生にとって、文理選択は高校入学後初めての進路に関する大きな決断です。保護者や先生方、先輩からアドバイスをもらいましょう。他にも、今後配布される『キャリアプランニングノート』24頁以降をよく読み、81頁のワークシートも活用しましょう。文理選択に関する思考を文章化し、「見える化」することは、自身が納得できる選択をするための有効な方法です。

2年生の秋は志望校を絞り込む時期です。「まだ早い」と思う人もいるかもしれませんが、「将来の夢」や「行きたい大学」など、明確な目標を見つけることは、学習意欲の向上につながります。早期に学習意欲が向上すれば、幅広い知識を土台に「思考力・判断力・表現力」が求められる共通テストの準備に余裕を持つことができます。早期に「覚悟」を決めた者が、「自己実現」への道のりを、広く安全なものにできるのです。積極的に進路を検討しましょう。

考査を振り返る

前期末考査を終え、結果をどう受け止めたでしょうか。学習内容の定着に向けて、何度も復習することの重要性は皆がよく知っています。しかし、「何度も」とは、単なる「解き直し」ではありません。模範解答や解説を読みながら問題を「なぞる」という復習方法だと、「分かったつもり」で終わっていることがあります。「授業と同じ問題なのにテスト本番でできない」ことがあるのは、このためです。以下に、定着度を高めるテクニックである「セルフティーチング」を紹介します。

①計算問題のポイントを先に把握する

例えば、「この問題は、面積比を線分比として計算すること!」と、実際に声に出して説明した後、手を動かして「解法の再現」に取り組んでみよう。

②読解問題の解答根拠を指さし確認する

例えば、記号問題の正誤に一喜一憂するのではなく、「この設問の解答根拠は、本文のこの部分(指をさしながら)で、it がさらにこの部分を指しているから、この設問の解答は、エ!」と、声に出して説明してみよう。読解問題で試されるのは、文章の内容が変わっても「抽象化」「因果把握」「対立把握」の3つだけである。

③逆一問一答をやってみる

例えば、「享保の改革後、商人の力を利用して幕府の財政再建を試みた老中は誰か?」という問いに、「田沼意次」と答えるのが一般的な一問一答だが、「田沼意次」という言葉を見て、「享保の改革の後、商人の力を利用して幕府の財政を立て直そうとした老中である」と自分の言葉で説明してみよう。難易度は高いが、理解は確実に深まる。

【参考: <http://www.ring.brigh10.jp/column/column-875/>】

復習した内容が定着したのかは、「再構築」できるかで確認できます。何度でも解答を完全再現できる、何度でも自分の言葉での説明ができる状態になれば、その内容は完全に定着していると言えるでしょう。

来月から後期が始まります。学習への意識を改めるにはよい区切りです。考査の振り返り、授業の振り返りの質を高め、「再構築」を意識しましょう。そして、後期に実施される定期考査や模擬試験で、学習内容の定着を実感できるようになりましょう。

大学入学共通テストまであと109日。頑張り3年生!

「最後は自分で決める」(文理選択について)

1年4組副担任 河野 健一郎

皆さんが本校に入学されて、早いもので半年が過ぎようとしています。まだ中学生の面影が残っていた夏休みの前と後では、受ける印象がすっかり変わりました。体育祭や文化祭などの学校行事や、探究活動の発表などを通して高校生らしい表情や態度が観られるようになり、58期生の皆さんを頼もしく感じています。

さて、後期の授業が始まりますが、1年生にとって進路選択の大きな課題が「文理選択」です。これは自分の将来に向けての大きな決断です。既に友達同士でよく話題になっているという声も聞かれます。担任の先生方からも詳しく説明があるでしょうし、授業中に各教科の選択科目の違い等お話しがあると思いますので、まずはそれをしっかり理解しておきましょう。

初めて自分の将来のことを真剣に考えてみたら、考えれば考えるほどよく判らなくなってきたという、皆さんの先輩も沢山いました。そこで私が思う「文理選択」をする上で知っていてほしいこと、考えておいて欲しいことをいくつか述べさせていただきます。

その1 「文系→理系」「理系→文系」、一度選んだら変更は難しい。

いわゆる「文転」は頑張れば可能だけど、文系→理系はほぼ不可能ということを目にするかと思います。ですが、受験科目が細分化され、システムも複雑になっている昨今の受験事情を考えると、どちらに変更するにせよ、途中からの方向転換はとても厳しい・難しいと言えます。「とりあえず理系」では、あとで大変な思いをします。

その2 流行に流されていないか？

将来なりたい職業ランキングに、ユーチューバーというのがあって驚きました。ここ数年の社会の変わりようと言ったら、それはもうもの凄いスピードです。現在のトレンドだって、あっという間に過去の出来事になってしまうというこの状況の中、世の中の流れに何となく乗っかってみるというのは、大変怖いことでもあります。

その3 「やりたいこと」「わくわくすること」で選んでほしい。

やっていると夢中になってあっという間に時間が経っている。そんなことはありませんか。今の時点で「得意」とか「上手く出来るかどうか」は大して重要ではありません。好きなことに一生懸命取り組んだことで新しい道が拓けた人もいますし、たとえ何かに繋がらなくても、やりきったと満足することで気持ちよく別の道に切り替えられたりします。

最後に… 「積極敢為 自ら運命を開拓せよ」

進路選択に関しては、色々な考えがあると思います。皆さんが周りの人に相談すると、それぞれの人がそれぞれの立場で、色々な意見を言ってくださると思います。でも決してアドバイスを鵜呑みにするのではなく、自分で納得のいくまで考えてください。本当に大切なのは、「自分で決める」ということです。自分で決めると人のせいになくてすみます。人に決められたと思うと、結果を人のせいにしてしまいます。それは悲しいことです。

21 世紀型スキルを身に付けよう！

2－2 副担任 内門 英一郎

日本も 2016 年にソサエティ 5.0 (Society5.0, 超スマート社会) を提唱する等, 世界は情報化, グローバル化が進んでいます。デューク大学 (米国) の C・ディビッドソン教授は 2011 年に, 「2011 年度, 小学校に入学した子どもの 65%は, 大学卒業時には現在存在していない職業に就くだろう」と発言しています。ではそのような社会で生き抜くことができるスキルとはどのようなものでしょうか。その答えの一つに, 米国政府や大学, Microsoft 等の企業も参画している国際団体, ATC21s(Assessment and Teaching of 21st Century Skills=21 世紀型スキル効果測定プロジェクト)が提唱した 21 世紀型スキルがあります。

21 世紀型スキル (4つのカテゴリと 10 のスキル)

1 考え方

- ① クリエイティヴィティ (創造性) とイノベーション ((技術) 革新)
- ② クリティカルシンキング (批判的思考), 問題解決, 意思決定
- ③ 学び方の学習, メタ認知 (自分の認知活動を客観的にとらえる)

2 働く方法

- ④ コミュニケーション
- ⑤ コラボレーション (チームワーク)

3 仕事のツール

- ⑥ 情報リテラシー
- ⑦ 情報通信技術のリテラシー (ICT リテラシー)

4 社会生活

- ⑧ 市民性 (ローカルとグローバル)
- ⑨ キャリア設計
- ⑩ 個人的, 社会的責任 (文化についての理解と適応)

例えば, 本校の SSH (スーパーサイエンスハイスクール) の活動では上記 1・2・3 や 4 ⑨のスキルを身に付けられるのではないかと思います。授業や部活動, 学校行事等でもどのようなスキルを身に付けられるか, 考えて活動に取り組んでみてはどうでしょうか。

併せて上のスキルに加え, 国語や日本の歴史・文化・作法, またこれからの世界を生き抜く強いメンタルとフィジカル, そういったものも (高校時代に) しっかりと身に付けなければならないと思います。

2021 年度大学入試から共通テストが始まります。このテストが導入されるのは, 社会構造が急速にかつ大きく変革しており, 予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく基礎力を測るためです。大学入試を突破し, 将来, 有為な人材になるために, ぜひ高校時代に少しでも 21 世紀型スキルを身に付けてほしいと思います。

早いもので、9月が終わろうとしています。大学入試共通テストがあと3か月半に迫ってきました。「志願票の記入や受験料の払い込みを済ませることで、受けるんだという実感が湧いた。」という人、多かったでしょう。意識せざるを得ない状況で、いろいろな悩みが出てくるのも当たり前。そこで多分多いであろう「眠気が出てしまう」、「集中力が続かない」ことについて、以下のことを参考としてほしいです。

ここでは、それぞれの緩和に役立つ「ツボ」を紹介します。ツボ（経穴）とは中医学、漢方医学、経絡学の概念で、身体表面の特定の部位に指圧、鍼、灸で刺激を与えることで体調の調整、諸症状の緩和を図るものとされており、WHO（世界保健機関）もその存在と効果を認めています。

合谷（ごうこく）：手のひらを開き親指と人差し指の骨の付け根の合わさったところにある。**眠気の解消、集中力のアップ**などに効果あり。

中衝（ちゅうしょう）：中指の爪の付け根の親指側にある（押すとツーンとした感覚があるところ）。反対の手の親指の先を中衝に当て、人差し指で中衝の反対側を挟むようにして押す。**眠気やイライラの解消、それと逆に不眠の解消**にも効果あり。※場所が探しやすく、おすすめ。

労宮（ろうきゅう）：手のひらを軽く握り、中指の先が当たったところにある。**集中力のアップ、眠気の解消**などに効果あり。



左図：<https://mensdrip.com/lifestyle/2015050902> より引用



右図：[https://img.kango-roo.com/upload/images/tsujii/14kokushi05/001\(1\).jpg](https://img.kango-roo.com/upload/images/tsujii/14kokushi05/001(1).jpg) より引用

さて、じゃあ、「受験に効くツボ」って、ないのでしょか？答えは、「あります!!」…といっても、身体の特定の場所にはありませんけど。要するに、私たちが自身の体に適切な刺激を与えることで何らかの効果が必ず現れるのです。日頃の学習が「刺激」とすれば、それは効果を生み出す適切な刺激となっているのでしょうか？受験まであまり時間のないなかで適切な刺激を与え、効果を実感しながら前進するためにも、先生方に相談してみよう。自分に必要な刺激が何かを確かめるために。

～気張いやんせ56期生～ 「まずしっかり聴く」

長年受験指導に関わっていると、思いもよらぬハプニングに遭遇する。それが人生の選択肢を狭めるときは残念でならない。例えば、一次試験の入室時間を何度も伝えたにも関わらず、遅刻してしまい、受験できずに志望校を変えた生徒がいた。また、二次試験の願書を郵便局で書留の手続きをせずそのままポストに投函したり、月曜日締切で土日は手続きができないのに金曜日の夕方になって出願を申し出たりしたこともあった（この二件はいろいろ手を尽くしてどうにか間に合った）。いずれも、何度も注意していたことを聞いていなかったり意識していなかったりしたことが原因である。56期生には、こんな不幸な出来事が起こらないように願っている。我々の話を「耳」＋「目」と「心」で聴いて欲しい。 （文責 塘）